

平成 30 年 9 月 10 日現在

機関番号：32502

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03322

研究課題名(和文)世界戦争としての日中戦争 - マルチ・アーカイブによる多角的アプローチ

研究課題名(英文)Sino-Japanese War as a World War -Multilateral Approach with Multi-archives

研究代表者

家近 亮子 (IECHIKA, RYOKO)

敬愛大学・国際学部・教授

研究者番号：10306392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：日中戦争をグローバルな視点で分析するために必要な史料をメンバー各自がアメリカやイギリス、オーストラリア、フランス、ハワイ、台湾などに調査に出かけ、新たに公開された歴史的公文書を中心に収集し、各自の論文執筆や学会発表に活用した。共同研究の最大の成果は、ソ連の外交文書を翻訳し、解題・解説を執筆することに全員で取り組んだ著書の出版である。題名は、河原地英武・平野達志訳著一家近亮子・川島真・岩谷将監修 - 『日中戦争と中ソ関係 - 1937年ソ連外交文書邦訳・解題・解説 - 』(東京大学出版会、2018年)である。

研究成果の概要(英文)：In order to collect the necessary historical materials for the purpose of analyzing the Sino-Japanese War from a global perspective, the research project members went surveys in the National Archives as well as National Libraries of the U.S., U.K., Australia, France, Netherlands, Russia, Hawaii and Taiwan. All of the collected materials were used to write each member's articles. The finding from the collaborative research is published in a book entitled The Sino-Japanese War and Sino-Soviet Relationship -the translation, the thesis and abstract of the 1937 Soviet Diplomatic Archives-, by Tokyo University Press, 2018. In the book Kawaraji Hidetake and Hirano Tatsushi took charge of the translation and thesis, Ichika Ryoko, Kawashima Shin and Iwatani Nobu wrote the abstract.

研究分野：日中関係史、近現代中国政治史

キーワード：日中戦争 世界戦争 ソ連外交文書 盧溝橋事件 中ソ不可侵条約 蒋介石 スターリン IPR

1. 研究開始当初の背景

21世紀になり、世界のグローバル化の深化の影響は日中戦争研究にも及び、国際的側面が強調されるようになった。それを加速したのは、台湾の中央研究院近代史研究所や国史館の檔案史料、そしてアメリカのスタンフォード大学フーバー研究所における「蔣介石日記」の公開である。2006年の公開開始以来、主に中国、台湾、日本の研究者たちはそれらのアーカイブを独自に閲覧、手稿し、研究成果を出してきた。蔣介石研究に関する国際シンポジウムは中国、台湾、日本、アメリカなどで活発におこなわれ、論文集などの出版も盛んになった。

日本においても2006年に蔣介石研究会(代表・山田辰雄)が組織され、新史料を使った共同研究がすすめられたが、その成果として2013年『蔣介石研究—政治・戦争・日本』(山田辰雄・松重充浩編著、東方書店)が出版された。代表である家近亮子(敬愛大学)、分担者である川島真(東京大学)、岩谷将(北海道大学)は、本研究会のメンバーとして本書に論文(家近「蔣介石の1927年秋の日本訪問—『蔣介石日記』と日本の新聞報道による分析」、川島「産経新聞の『蔣介石秘録』の価値—「日記」の引用とオリジナリティをめぐる再検討—」、岩谷『蔣介石、共産党、日本軍—20世紀前半、中国国民党における情報組織の生成と展開—』)を寄稿し、研究活動を共にこなってきた。

家近は、2012年に『蔣介石の外交戦略と日中戦争』(岩波書店)を出版し、蔣介石が日中間の紛争・対立を国際連盟などの国際機関に提訴してグローバルし、中国の正当性を訴え、国際社会から同情とともに援助を引き出し、不平等条約を廃棄し、国際的地位を向上させようとする戦略を展開したことを明らかにした。

そのような蔣介石にとって、1941年12月の日米開戦は長年の外交戦略の成果として認識された。太平洋戦争勃発の翌日、蔣介石は初めて日独伊の三国に宣戦布告し、中国は連合国の一員となった。

同時に、家近は蔣介石が日中戦争を戦いながら、近代から中国が抱えていた英ソとの領土問題を解決しようとして、次第に両国との間に齟齬をきたしていったことを明らかにした。このような蔣介石率いる中華民国国民政府に対する英米ソの政策はどのように展開されたのか。本研究を開始した当初の目的の一つは、家近が本書において問題提起し、論証を残したこの点を共同研究によって明らかにすることにあつた。

2. 研究の目的

本科研では日中両国が1937年7月7日の盧溝橋事件以前から共に国際社会を意識し、独自の外交を展開し、欧米列強、主に米英ソに各種の働きかけをしたことに着目する。と同時に、米英ソ各国も国益をかけ、この日中間の「紛争」を利用し、アジア戦略を展開しようとしていたことを明らかにしようとした。最大の目的は、日中戦争開始直前からの米英ソの外交戦略を各国の公文書、および檔案、私文書、メディア史料などのマルチ・アーカイブを使用して、多角的に解明することにあつた。

3. 研究の方法

家近は川島、岩谷を含む他のメンバーと共に代表者として、2012年4月から3年間、科研「20世紀中国の政策決定過程における『世論』要因の分析」(基盤研究(B) 課題番号24330043)を運営した。そこで、中国の世論は一面で操作されてきたが、一面で権力者の操作を越えた動きを見せ、政策決定に意想外の影響を与え、その世論は国内状況のみならず、国際的

な宣伝戦の下で変動することを明らかにした。本科研を基盤に申請した本科研においては、これまでの共同研究で培った世論研究の蓄積を十分に活用し、これを日中戦争に絞り込んで分析していくこととした。

さらに、本科研においては、日露外交の専門家である河原地英夫（京都産業大学）を新たな研究分担者とした。河原地は現代の日露外交に関する多くの業績があるが、その関心は歴史にも及び、「日中開戦前後のソ連外交 ロシア（旧ソ連）公文書を中心に」（京都産業大学『世界問題研究所紀要』第28巻、2013年2月）において、日中戦争開始前後の旧ソ連の公文書を整理した。これによりソ連外務部と国民政府外交部との交渉内容、1937年8月の中ソ不可侵条約締結の背景が明らかにされた。ソ連の公文書および未公開史料による日中戦争時期の対中政策、ソ連のアジア戦略の解明は、本科研に新たな分析視角と目的を提供したといえる。

4. 研究成果

日中戦争をグローバルな視点で分析するため、メンバーは、各自の研究に必要な史料をアメリカやイギリス、オーストラリア、フランス、ハワイ、台湾などに調査に積極的に赴き、新たに公開された歴史的公文書を中心に収集した。それらの史料は、各自の単著、論文執筆や学会発表に十分に活用された。

科研としての共同研究の最大の成果は、ソ連の外交文書を翻訳し、解題・解説を執筆することに全員で取り組んだ著書の出版である。題名は、河原地英武・平野達志訳著 - 家近亮子・川島真・岩谷將監修 - 『日中戦争と中ソ関係 - 1937年ソ連外交文書邦訳・解題・解説 - 』（東京大学出版会、2018年）である。ここでは、1935年からのコミンテルンの方針転換を受けて、中国

共産党及びソ連による蒋介石への働きかけがどの様におこなわれたか、特に1936年12月の西安事件から活発になった中ソ交渉と日中戦争との関連をソ連の外交文書を中心に分析した。分担者の河原地と協力者の平野達志（東京大学大学院）は、ロシア語の翻訳と解題、家近・川島・岩谷は、史料に関連した日中ソ関係に関する研究解説を担当した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計21件)

平成29年度

1. 家近亮子「蒋介石における戦時外交の展開 中国IPRへの領導と中華の復興・領土回復の模索」、『軍事史学』特集「日中戦争八〇周年」第53巻第2号、77～104頁、2017年9月、査読有

2. 川島真「中国における甲午戦争百二十年史研究」『東アジア近代史』21号、2017年、56-70頁、査読有

3. 川島真「東亜国際政治史 圍繞中国的国際政治史与中国外交史」日本国際政治学会編、劉星訳『日本国際政治学 第四巻 歴史中的国際政治』（北京大学出版社）、2017年、66-85頁、査読有

4. KAWASHIMA Shin, "The Turning Points of Modern Sino-Japanese Relations", in Arthur Herman and Lewis Libby eds., *Asian Shadows: the Hidden History of World War Two in the Pacific*, Hudson Institute, 2017, pp.21-30, 査読有

5. 岩谷將「中国大陸における日本軍の治安戦」防衛省防衛研究所『非正規戦争の歴史的考察－戦争史研究国際フォーラム報告書』65-72 2018年3月 査読なし

6. 岩谷將「日中戦争拡大過程の再検証」『軍事史学』（第53巻第2号、2017年9月、4-27頁、査読有

平成28年度

7. 河原地英武「一九三七年の極東情勢とソ

- 連 中ソ不可侵条約の成立過程 (麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919 - 1941』みすず書房、1927年2月)、229 - 254 頁
- 8.川島真「日中戦争と華僑送金 『傀儡』政権の存在意義』『国際社会科学』第65輯、2016年、65 - 76 頁、査読無
- 9.岩谷將「華北における日本軍の治安戦」『戦史研究年報』第19号、2016年3月、1 - 16 頁、査読有。
- 10.IWATANI, Nobu, "From Marco Polo Bridge to Shanghai: Initial Phase of the Sino - Japanese War Revisited" 『戦史研究年報』第19号、2016年3月、97 - 107
11. 岩谷將「日中戦争における和平工作」(筒井清忠編『昭和史講義2』ちくま書房、2016年) 165 - 182 頁、査読無。

平成27年度

- 12 . 家近亮子「北伐から張作霖爆殺事件へ」(筒井清忠編『昭和史講義 最新研究で見る戦争への道』ちくま新書、2015年)、49 - 71 頁
13. 家近亮子「蔣介石の視点からみた『南京』」、『別冊正論』26巻、2016年3月、164 - 175 頁
- 14 IECHIKA RYOKO' From the Northern Expeditions to the Assassination of Zhang Zuolin", Tsutsui Kiyotada Edited, *Fifteen Lectures on Showa Japan-Road to the Pacific War in Recent Historiography*, 出版文化産業振興財団、2016年3月
- 15.河原地英武「ロシアの対外政策と日本の立場」『京都産業大学 世界問題研究所紀要』第31巻、2016年3月、155 ~ 166 頁、査読有
- 16 . 川島真「日中戦争初期における重慶ラジオ放送とその内容」貴志俊彦・川島真・孫安石編著『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版、2015年、72 - 95 頁、査読無
- 17.岩谷將「日本陸軍眼中的汪精衛和平運動」『戦争の歴史と記憶』(国史館、2015

年、144 - 165 頁) 査読有。

- 18 . 岩谷將「日中戦争初期中国的対日方針以陶德曼調停中孔祥熙の活動を中心」『対立と共存の歴史認識:中日関係150年』(中国社会科学文献出版社、2015年、303 - 334 頁) 査読有。
- 19.岩谷將「盧溝橋事件」(『昭和史講義』ちくま書房、2015年)、141 - 156 頁
- 20.岩谷將「陶德曼調停中の蒋介石と孔祥熙」『宋氏家族と近代中国の変遷』(東方出版中心、2015年) 216 - 237 頁
- 21.IWATANI, Nobu, "The Marco Polo Bridge Incident," Tsutsui Kiyotada, *Fifteen Lectures on Showa Japan: Road to the Pacific War in Recent Historiography*, Japan Publishing Industry Foundation for Culture, 2016, pp.141-157

〔学会発表〕(計21件)

平成29年度

- 1 . 家近亮子「蒋介石の外交戦略と中国IPR」, 科研(「アジア・太平洋秩序のトランスナショナルヒストリー『文化国際主義』の挫折と再生」研究会、明治大学、2017年12月16日
- 2 . 川島真「作為思想的対華外交：従外交現場審視蒋介石・中華民国・台湾」“第四届蒋介石与近代中国”国際学術研討会、2017年6月11日、浙江大学、杭州市・中国
- 3.KAWASHIMA Shin,"CHINESE PERCEPTIONS OF ASIA AND JAPANESE PAN-ASIANISM IN THE EARLY 20TH CENTURY", EAJS2017,2017/9/1, Faculty of Social Sciences and Humanities (FCSH), NOVA, リスボン・ポルトガル
4. KAWASHIMA Shin, "Rethinking Wang Jingwei Puppet Regime's Value to Japan: the Case of Overseas Chinese Remittance to Occupied South China", Panel 366 Reassessing Chinese Collaborationist Regimes under

Japanese Wartime Occupation, 1938-1945 (AAS Annual Conference 2017, March 19, 2017, at Sheraton Centre Toronto, トロント・カナダ)※国際学会

5. 岩谷将「從盧溝橋到上海 再論中日戦争初期的展開」中国社会科学院近代史研究所他共催「紀念全面抗戰爆發 80 周年国際学術討論会」、北京、2017年7月6~9日

7. 岩谷将「日中戦争勃発過程の再検証 盧溝橋事件から第二次上海事変を中心に」中央研究院近代史研究所「邁向和解之路：中日戦争的再検討」、台北、2017年9月14日~16日

6. 岩谷将「中国大陆における日本軍の治安戦」防衛省防衛研究所主催「平成 29 年度戦争史研究国際フォーラム：非正規戦の歴史的考察」、椿山荘、東京文京区、2017年9月20~21日

平成28年度

7. 家近亮子「蒋介石と日中戦争—蒋介石は抗日戦争によって、何を得、何を失ったか」、偕行社主催シンポジウム「日中戦争の指導者—蒋介石・毛沢東・汪兆銘」、明治大学、2017年2月18日

8. KAWASHIMA Shin, "Rethinking Wang Jingwei Puppet Regime's Value to Japan: the Case of Overseas Chinese Remittance to Occupied South China", Panel 366 Reassessing Chinese Collaborationist Regimes under Japanese Wartime Occupation, 1938-1945 (AAS Annual Conference 2017, March 19, 2017, at Sheraton Centre Toronto, トロント・カナダ)

9. 岩谷将「盧溝橋事件再論」現代中国学会、慶應義塾大学藤沢キャンパス、2016年10月30日

平成27年度

10. 家近亮子「中国 IPR と国民政府の対応」、IPR 研究会、早稲田大学アジア太平洋研究所、2015年5月16日

11. 川島真「ポスト黄金の10年 留日学生史研究の新段階と史料」(科学研究費補助金 基盤研究(C)一般「留日学生、それぞれの日中戦争 マルチ・アーカイブによる留日学生の戦争行動分析」研究会、北海道大学、北海道札幌市、2016年7月16日

12. 川島真「戦後中華民国の対日宣伝フィルム」(公開ワークショップ「非文字資料が描く中国・台湾像」)、2016年6月15日、京都大学地域研究統合情報センター、京都府京都

13. KAWASHIMA Shin, "The introduction of materials and archives on East Asian Media history in Japan: For our future collaboration" (Sound and the Memory of World War II in Europe and Asia, June 10-11, 2016, at Aarhus University, オーフス・デンマーク)

14. Shin Kawashima, 「The Image of World Order in Modern China: the Tribute Relations in Memory」 International workshop Representations of China in a Changing World Order, 1915-1949: New Research Perspectives in Italy and Japan, 2016年3月17日、ヴェネチア(イタリア・Ca' Foscari University)

15. 岩谷将「中日戦争期間の日本謀和工作和宋子文」復旦大学・スタンフォード大学フーバー研究所共催「宋氏家族与第二次世界大戦」(上海)2015年6月17日~18日

16. 岩谷将「日本陸軍眼中的汪精衛和平運動」国史館、中央研究院近代史研究所、故宫博物院共催「戦争の歴史と記憶：抗戦勝利70周年学術討論会」(台北)2015年7月7日~9日

17. IWATANI, Nobu, "Japanese Army's Strategy toward China after the Battle of Wu - han," Hoover Institution Summer Workshop on "Revisiting the 2nd Sino - Japanese War, 1931 - 1945", Stanford.

2015年8月10日、招待。 国際学会
18.IWATANI, Nobu, "From Marco Polo Bridge to Shanghai: Initial Phase of the Sino - Japanese War Revisited," 41th International Congress of Military History, Beijing. 2015年8月31日~9月4日
21.岩谷將「中日戦争爆發過程の再検討」中央研究院近代史研究所「邁向和解之路：中日戦争の再省思」(台北)2015年9月14日~16日

〔図書〕(計7件)
科研の成果図書
河原地英武・平野達志訳著 - 家近亮子・川島真・岩谷將監修 - 『日中戦争と中ソ関係 - 1937年ソ連外交文書邦訳・解題・解説 - 』東京大学出版会、2018年
平成29年度

1.(共著)尾形勇・川島真・後藤明・桜井由躬雄・福井憲彦・本村凌二・山本秀行・西浜吉晴著、本村凌二監訳『英語で読む 高校世界史 Japanese High School Textbook of the World History』講談社、2017年、383頁
2(共著) Ryosei Kokubun, Yoshihide Soeya, Akio Takahara, Shin Kawashima, Translated by Keith Krulak, *Japan-China Relations in the Modern Era*, Routledge, 2017, 234 pages.
3.川島真『中国のフロンティア 揺れ動く境界から考える』岩波書店、2017年、240頁
4.(共著)福井憲彦・太田信宏・加藤玄・川島真・高野太輔・佐川英治・本村凌二・山本秀行・角田展子・西浜吉晴『世界史B』東京書籍、2017年、448頁

平成28年度
5.家近亮子・唐亮・松田康博編著『新版 5分野から読み解く現代中国 歴史・政治・経済・社会・外交』晃洋書房、2016年、325頁
平成27年度

6.家近亮子・川島真『東アジアの政治社会と国際関係』放送大学教育振興会、2016年、298頁
7.(共著)貴志俊彦・川島真・孫安石編著

『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版、2015年、599頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6.研究組織

(1)研究代表者

家近亮子 (IECHIKA, Ryoko)
敬愛大学・国際学部・教授
研究者番号：10306392

(2)研究分担者

1.河原地英武 (KAWARAJI, Hidetake)
京都産業大学・外国語学部・教授
研究者番号：60224870
2.川島真 (KAWASHIMA, Shin)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90301861
3.岩谷將 (IWATANI, Nobu)
北海道大学・法学研究科・教授
研究者番号：80779662

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

1.平野達志 (HIRANO, Tatushi)
東京大学大学院・総合文化研究科・院生